

令和 5 年 5 月 4 日現在

機関番号：34503

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20002

研究課題名（和文）書簡を中心とした蕉風俳諧の研究

研究課題名（英文）A Study of Basho-style Haiku Based on Letters

研究代表者

辻村 尚子（TSUJIMURA, Naoko）

大手前大学・国際日本学部・准教授

研究者番号：70908996

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：公益財団法人柿衛文庫が所蔵する芭蕉ならびに蕉門第一世代の書簡調査を実施した。調査の成果として、越人書簡について論文を発表し、「かるみ」以前の、芭蕉の初期蕉風俳諧が、越人門においてどのように受容されていたのかを明らかにした。あわせて、従来「蕉風離反者」と位置付けられてきた越人の再評価を行った。また、芭蕉と蕪村書簡に関する論文3点を発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

書簡が有する、筆跡・内容両面における豊富な情報を活用することで、これまで、作品解釈や俳論分析、俳書入集歴による人的交流の把握が中心であった蕉風俳諧研究に新たな視点を提供することができた。特に、芭蕉没後の蕉門第一世代については、伝存資料の少なさも研究が遅れている分野である。書簡の解読を通して具体的な動向が明らかになり、伝記研究の前進、俳人の再評価につながった。また、書簡の筆跡は、今後、直筆資料の真贋鑑定の基本資料として活用されうるものである。

研究成果の概要（英文）：A survey of the letters of Basho and his disciples in the collection of the Kakimori Bunko Foundation was conducted. As a result of the research, I published a paper on Etsujin letters, and clarified how Basho's early Basho-style Haiku, before "Karumi", was received by Etsujin's disciples. This research has made it possible to re-evaluate Etsujin, who has been regarded as "a defector from Basho-style Haiku". In addition, three papers on the letters of Basho and Buson were published.

研究分野：日本文学

キーワード：書簡 蕉風俳諧 芭蕉 蕉門 越人 蕪村 柿衛文庫

1. 研究開始当初の背景

芭蕉が提唱した蕉風俳諧の究明は、俳文学研究において重要な課題であるが、従来の研究では、作品解釈や俳論分析、また、俳書入集歴の調査による人的交流の把握が中心であり、書簡が有効に活用されてきたとは言い難い状況にあった。

その背景として、芭蕉書簡研究の充実に比べ、特に中興期以前の蕉門第一・第二世代の書簡については、伝存資料の少なさもあいまって、研究が停滞していることが考えられる。もちろん、個々の俳人研究において公表された書簡もあるが、まとまったものとしては飯田正一『蕉門俳人書簡集』(桜楓社、1972年)の翻刻(一部図版もあり)があるばかりである。同書においても、現在では所在不明となった書簡が多く含まれている。直筆資料の発掘や、これまで個別に公表された情報の集成が欠かせない。

代表者は、芭蕉を中心として把握されてきた蕉風俳諧を、芭蕉の門弟である其角の活動を基軸に捉え直すことで、従来とは異なる作品解釈の提示や、蕉門俳人の再評価をおこなってきた。また、代表者の前勤務先である公益財団法人柿衛文庫には、芭蕉筆跡研究の第一人者である創設者岡田利兵衛が収集した俳人書簡が収蔵されている。代表者はこれまでに、その中から数点の蕉門俳人書簡について考察し、各門人の蕉風俳諧観や、芭蕉没後の動向を明らかにした。以上のことから、代表者は書簡研究が蕉風俳諧の究明に有用であることを認識するようになった。

2. 研究の目的

芭蕉ならびに蕉門俳人の書簡を研究するための基盤を築き、その成果を、蕉風俳諧研究に活用することを目指し、本研究では下記の3点を目的に定めた。

- (1) 研究の核となるのは、公益財団法人柿衛文庫が所蔵する俳人書簡の調査である。柿衛文庫にはまとまった点数の書簡が収蔵されている。これらを公表することにより、これまでの研究の停滞を押し進めることが可能である。柿衛文庫所蔵資料のうち、書冊と短冊に関しては目録が刊行されているが、書簡については刊行されていない。将来的には、『柿衛文庫目録 書簡編』にまとめることを視野に入れ、書誌調査を行う。
- (2) 筆跡・内容共に、書簡考証の精度を高めるためには、ツレとなる関連書簡の情報が欠かせない。そのために、これまでに公表された書簡の情報を集約する。関係機関の調査によって、新たな書簡の発見も目指す。
- (3) (1)(2)を踏まえ、特に重要と思われる書簡については、内容を分析し、蕉風俳諧についての新たな知見を得ることを最終的な目的とする。

3. 研究の方法

- (1) 柿衛文庫所蔵書簡の調査については、本研究では芭蕉ならびに蕉門第一世代の書簡55点を対象として1点ずつ資料を実見し、書誌、発信者、受信者、日付、概要等のデータを採取し、目録の礎稿となるリストを作成した。(2)のデータを活用し、すでに紹介されている書簡についてはその文献についての情報も加えた。未紹介書簡に関しては、順次翻字考証を進めた。
- (2) 「連歌俳諧研究」に掲載された文献目録をもとに、これまでに公表された書簡論文の情報を集積した。その際、論題だけではわからない、発信者・受信者・日付、図版の有無等を項目に入れ、リスト化し、検索の便を図った。所在が明らかになった書簡については、実物資料の調査を行い、情報を追加した。
- (3) 柿衛文庫所蔵書簡の中では、12通とまとまった点数がある越人書簡を取り上げ、越人晩年の活動と蕉風俳諧の関わりについて考察した。また、(2)の調査の過程で確認した蕪村書簡について、蕉風復興運動が盛んな中興期に活躍した蕪村の門人交流と俳諧理念について検討を加えた。また、既知の芭蕉書簡についても、関係する門人の動向や、掲載された俳書の編集方法という新たな角度からの検討を行った。

4. 研究成果

上記3点の研究のうち、(1)については、当初の予定通り55点全ての調査を終えることができた。(2)についても、書簡論文632点をリスト化した。これらについては、今後も調査を継続してゆく。ここでは、(3)の成果について重点的に報告する。

(3)の書簡考察については、芭蕉書簡、越人書簡、蕪村書簡の3種について成果を上げることができた。

まず、芭蕉書簡においては、元禄四年正月五日付曲水宛を取り上げた。この書簡は、『俳諧勸進牒』(元禄四年刊)に掲載されるものである。本来私的なものであるはずの書簡を、出版によって公表するという行為は、芭蕉生前においては、本書簡を含め3例しか確認でき

ず、それら全てに其角が関与しているのである。このことを手がかりに、『勸進牒』の成立背景、編集方法について検討を加え、本書が其角後援のもと、芭蕉と路通の不和を改善するために出版された書であることを指摘した。芭蕉の信頼を得た其角だからこそ書簡の公刊が可能だったのである。書簡の公表は、路通を疎外していた他の蕉門俳人に、芭蕉と路通の親密さを示すことになる。また、書簡に芭蕉が報告する発句が、同年刊行の『猿蓑』に収録されることに着目し、書簡という私的な心情を吐露する文脈で読まれる場合と、句集という文脈で読まれる場合では、同じ句であっても意味合いが異なることを示し、『猿蓑』の新たな読みを提示した。

柿衛文庫が所蔵する越人書簡は、門人問景に宛てたものが多く、いずれも越人晩年の享保期のものと考えられる。名古屋市博物館、奥の細道むすびの地記念館、山寺芭蕉記念館等が所蔵する関連資料の調査も踏まえ、筆跡や内容について検討を行った。書簡に見られる、儒学を背景とする詩文を通しての応酬や、俳壇復帰後の第一撰集『鵲尾冠』の入集句から、問景が尾張藩儒小出侗齋に学ぶ若き書生であった可能性が高いことを明らかにした。また、越人が頻繁に若い世代の門人たちと交流を持っていたこと、門人に対してユーモアをもって接していたこともうかがえた。従来、初期蕉風に固執した懐古趣味と、否定的なニュアンスで捉えられてきた越人晩年の俳風が、儒学を学ぶ若い門人にとっては、温故知新の孔子の教えに通じる理想とすべきものとして受け入れられていたことを指摘した。『猿蓑』以降の「かるみ」の俳風に順応しなかった蕉門俳人の動向については、従来研究の関心が薄く、蕉風離反者という一面的な評価がなされがちであるが、書簡を丁寧に読み解くことで、その評価に再考を促すことが可能になり、書簡研究の意義を改めて確認することができた。

蕪村書簡は4通確認することができた。そのうち3通はすでに知られているものであるが、活字資料によっていたため、原簡の出現により『蕪村全集 第五巻 書簡』(講談社、2008年)の読みを一部改めることができ、伝来についての情報も加えることができた。新出の1通は、但馬の門人芦田六左衛門(初号馬圃、のち霞夫)に宛てたものである。蕪村は霞夫に芭蕉の俳諧を説き、洒落や脱俗に言及していた。中興期において蕪村の地方門人に蕉風俳諧が継承される様を見ることができるとも注目すべき門人である。新出書簡は、馬圃から霞夫への改号時期を安永四年三月末頃に限定することを可能にした。霞夫の号が蕪村俳諧の根本理念である「離俗」の精神に通じるものと蕪村が認識していたことも、本書簡によって初めて明らかになった。また、4通の筆跡を見比べることによって、同じ支援者であっても、相手によって謹直さ・親しさの差異が見受けられることを指摘した。なお、これら4通の書簡は、2022年に市立伊丹ミュージアムで開催された「蕪村の手紙」展に出品され、広くその成果を公表することができた。

以上のように、当初の計画を遂行し、各課題において成果を得ることができた。書簡の持つ豊かな内容は、蕉風俳諧の再考に有用であることを確認した。また、直筆書簡は、筆跡検討の根本資料としても価値がある。今後も、柿衛文庫所蔵書簡の目録化を目指し、調査研究を着実に推し進めたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 辻村尚子	4. 巻 116・117
2. 論文標題 路通『俳諧勸進牒』と其角	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 14～27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 辻村尚子	4. 巻 142
2. 論文標題 新出蕪村書簡芦田六左衛門宛 - 霞夫の改号 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 連歌俳諧研究	6. 最初と最後の頁 24～29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻村尚子	4. 巻 143
2. 論文標題 蕪村書簡二通 柳女・賀瑞宛	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 連歌俳諧研究	6. 最初と最後の頁 35-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻村尚子	4. 巻 56
2. 論文標題 俳壇復帰後の越人 - 問景宛書簡二通の紹介と考察 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 俳文学報	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻村尚子	4. 巻 23
2. 論文標題 柿衛文庫所蔵の俳人書簡 - 越人 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大手前大学論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------